

# 第140回 国際母子カンファレンス

日時：2018年6月13日 水曜日 18:00～19:00

※今年度から年3回（6月、10月、2月 第2水曜日）に変更になりました。

場所：国立国際医療研究センター

国際医療協力研修センター5階 大会議室

## 講演

### 若年がん患者に対する妊孕性温存の 現状と展望

講師：乳腺腫瘍内科診療科長 清水 千佳子 先生

講演頂く清水 千佳子先生は、これまで国立がん研究センター中央病院にて乳癌診療とともに、若年乳癌患者の妊孕性温存に取り組まれてこられました。

近年のがん診療の進歩に伴い、がん患者のがん克服後の生活の質（Quality of Life : QOL）の向上も注目されています。若い患者さん、特に思春期・若年成人(AYA)世代のがん治療は、ときに卵巣および精巣などの性腺機能不全をきたし、将来子供を持つことができる可能性（妊孕性）が低下することがあります。その結果、患者さんはがん治療後に長期にわたり QOL の低下に悩まれることがあります。最近になり医療技術の進歩とデータの蓄積から、条件付きではあるものの妊孕性を温存する治療が試みられています。

講演では乳がん治療後の妊孕性温存に関するあゆみと今後をお話しいたします。

どなたでも参加できます。奮ってご参加ください。

主催：国際母子タスクフォース（協賛：医薬会）

